



Avidの視点:メディア・クラウド

メディア企業にとっての現在および今後のメリットを理解する

メディア企業が、どのように最新のクラウド技術を使って、複数のワークフローの連携を推進し、運用効率を高め、いち早いニュース配信のためにリアルタイムでコラボレーションし、新たな収入源を見出すことができるか。

2011年9月9日

本社 800 949 AVID (2843)

アジア事業本部 +65 6476 7666

ヨーロッパ事業本部 +44 1753 655999

お住まいの地域のAvidオフィスは、www.avid.com/contactを参照してください。

©2011 Avid Technology, Inc. 無断転載・複写を禁じます。製品の機能、仕様、システム要件、および販売状況に関しては、予告なく変更されることがあります。Avid、Interplay、ISIS、Media Composer、NewsCutter、およびAvidのロゴは、米国あるいはその他の国のAvid Technology, Inc.とその子会社の登録商標または商標です。「Interplay」の名称は、Interplay Entertainment Corp.の許可を得て使用しています。同社はAvid製品に対してなんら責任を負うところのものではありません。そのほか本書に記載されている商標はすべて、各企業に帰属します。

Avidの視点:メディア・クラウド

要旨

メディア業界は、過去に例を見ない変化に直面しています。視聴者の行動は細分化し、新しい技術モデルは進化の一途を辿り、バリューチェーンはより一層複雑化しています。視聴者、顧客、オンラインの視聴者は、観たいときに観たいものを観る、というパーソナライズされたデジタル体験で従来のメディア消費の習慣を向上させ、多くの場合、これを置き換えています。メディア企業は、HDおよび3Dファイルなど、ますます膨大でより複雑なアセットを作成、コラボレート、加工、保存、管理、配信しなくてはなりません。さらにオンデマンド、リアルタイム、そしてより低い限られた費用でこれらを実行する必要があります。

この新しい情勢の中、新しい収益モデルを生み出す配信プラットフォームを介した、新しい消費者体験を提供することに焦点を当てていくことが、メディア企業の成功につながるものとAvidは強く信じています。先見性のあるデジタル・メディア戦略には、従来のイントラネットおよびインターネットベースのソリューションに加え、クラウドベースのサービスも盛り込む必要があります。Avidのインテグレートド・メディア・エンタープライズ(IME)のフレームワークは、企業が自信を持って今この事業に着手し、クラウド・コンピューティングによって提示される機会を最大限に活用するための設計図を提供します。ここでは、このフレームワークの主要メリットをご紹介します。

- ワークフローの最適化およびオートメーションにより向上した、ビジネスにおける敏捷性
- 運用効率の向上および運用の総コストの低減
- 円滑なリアルタイムのコラボレーションによって強化された制作過程
- アクセスを増加させ、コンテンツを集約し、収益化のための機会を作り出す技術革新を通して、新しい収入源を確立

コンテンツが王様—しかし王位は誰のものか

メディアを制作、共有、消費するために必要なツールおよびテクノロジーはどこにでも存在し、ほとんど誰もがそれらを使用しています。実際に、今後5年間で5000億時間以上のオンラインビデオ・コンテンツが利用可能になると予想されています¹。私たちは、カメラやスマートフォン、その他ポータブル機器で身の回りの世界を捉える記者、映画制作者、クリエイター、および視聴者で溢れ返る惑星に住んでいます。そして、私たちは、拡張し続けるソーシャル・メディア・プラットフォームのネットワーク上で、制作するすべてのものを共有しています。ニュースはもはや、18時にTVスタジオから独占的に放送されるものではなくになりました—起こると同時に、起こっている場所から、ニュースは収集、配信され、そして誰でも寄稿できるようになっています。

このコンテンツ制作の急速な増加の真只中で、メディア企業は、従来のモデルおよびワークフローは維持できないと実感しています。関連性が高く、インタラクティブで、パーソナライズされた体験を、どこからでも、どのスクリーン上にも要求する観衆による、膨大な量のメディアの管理、配信、収益化を可能にする、新しいビジネス方法の採用次第で成功が決まります。

伸びる消費者のメディア需要

2015年までに:
インターネット接続テレビが米国世帯に4300万台³
150億以上のIP対応機器⁴
10億人以上のモバイル・ビデオ視聴者⁵

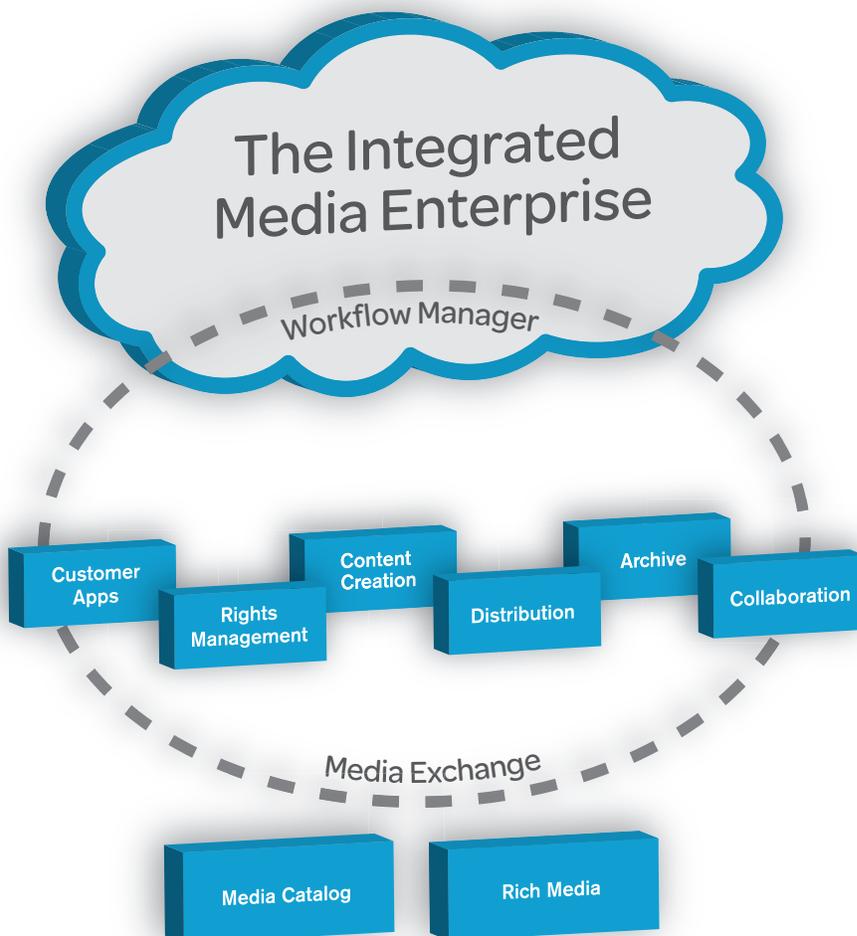
今日、より多くの人々に情報を届けることは簡単になりましたが、いつ、どこで、どのようにコンテンツに接続するかは、各メディア消費者の判断に委ねられています。メディア機関は、より有意義な方法で視聴者の関心を引き、維持、アピールしていかなければ、細分化のために視聴者を失うリスクを負うことになります。こうした新しい現実、計り知れないプレッシャーを生み出してきました。コンテンツの再利用、バージョン管理、およびメディア関連性のトラッキングは、有益なメディア企業ビジネス戦略の核心部分となっています。コンテンツ制作にはより速いスピードが要求され、各消費者に向けて関連性の高い内容になっていなければなりません。すべてを適切なフォーマットで、適切なデバイスに対し、適切なタイミングに、適切な人に向けて再パッケージ化して配信する必要があります。

インテグレートド・メディア・エンタープライズとクラウド

Avidは、メディア企業が、今日の急速に変化する環境が提示する課題に対応し、ビジネス機会を獲得できるよう、インテグレートド・メディア・エンタープライズ(IME)のフレームワークを開発しました。IMEは、ますます複雑で難解な要求の中をうまく進んでいくために企業を支援する戦略であるだけでなく、技術およびビジネス・フレームワークにもなっています。これまで以上に、メディア企業は、より低い予算とより少ない人手でマルチプラットフォーム配信を管理し、既存の資産にアクセスし、さらにそれらを収益化する新しい方法を見つけることで、プロダクション過程からより高い生産性を上げることが要求されています。配信されたワークフローおよびオープン・ウェブ・サービスでサポートされたIMEフレームワークは、低いリスクで迅速に展開、適用できる新しいワークフローおよびビジネス・モデルに焦点を当てた、モジュール式のオープンな手段を通してビジネス敏捷性を強化します。

図1:インテグレートド・メディア・エンタープライズ

成功のための技術およびビジネス・フレームワーク

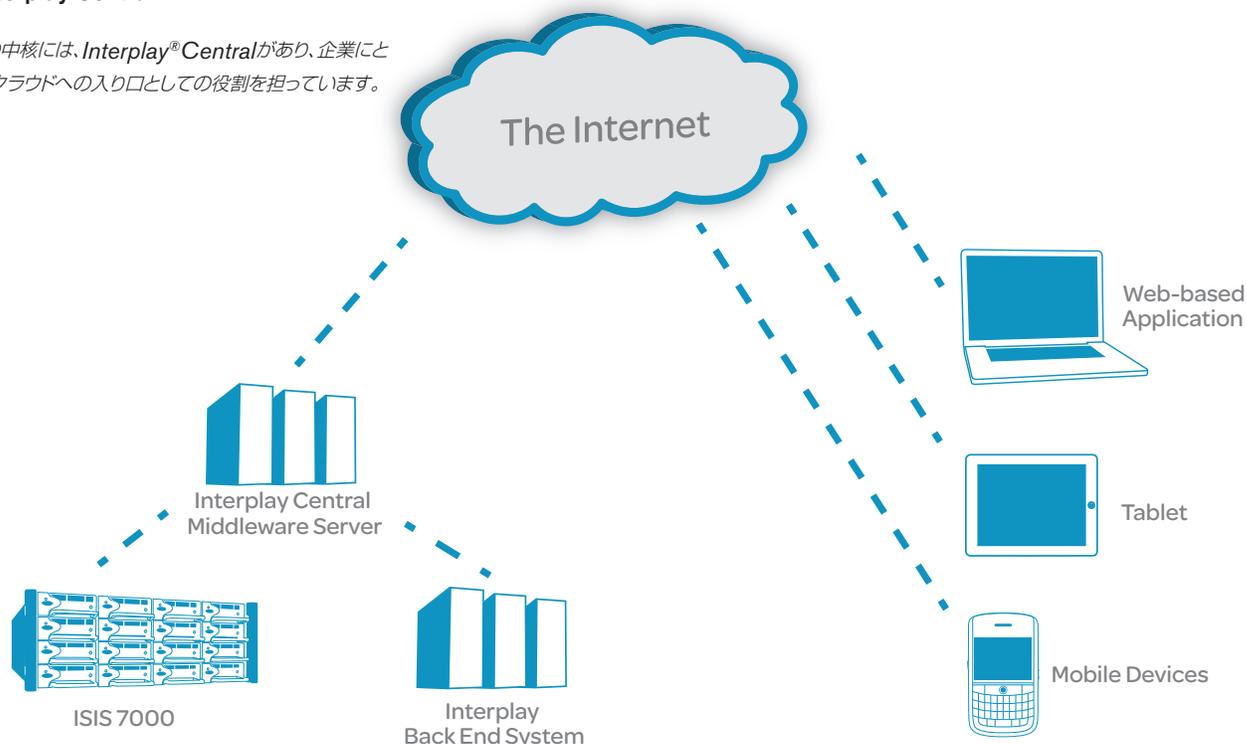


Interplay Central

Interplay Centralは、忙しいメディア業界人に、ウェブおよびモバイルベースの両方のアプリケーションを通じて、クラウドに対応した次世代のメディア・ワークフローツールをお届けします。Interplay Centralは、オープンなユーザー・インターフェースにより、透視性の高いアセット管理、チーム・コラボレーション、ワークフローの柔軟性を提供し、さまざまなメディア制作部門に携わる人々がタスクを完了するために必要とするツールへの「場所を問わないアクセス」を可能にします。Interplay Centralは、企業にとってクラウドへの入り口としての役割を果たすキー・ソリューションです。

図2: Interplay Central

IMEの中核には、Interplay® Centralがあり、企業にとってのクラウドへの入り口としての役割を担っています。



クラウド使用による、より高い俊敏性への入口

Interplay Centralは、リッチなクラウドベースのアプリケーションに、テキスト、ビデオ、オーディオの各編集機能を組み込み、ユーザーが記事にアクセスし、作成や編集作業を行えるようにすることで、並外れた柔軟性を提供します。この非常に多目的なアプリケーションは、ブラウザとインターネット接続のみを使用し、コンテンツをその場で制作するための、俊敏で共同的、かつ有益な手段を提供します。Interplay Centralは一連の「Persona Packs(役割の枠組み)」—ますます多様になるユーザーが、使いやすいツールを使って企業アセットを開拓し操作できるようになる枠組み—の入り口にもなっています。

リアルタイム・コラボレーション

Interplay Centralのユーザー・インターフェースは、高度のカスタマイズが可能のため、各チーム・メンバーが制作過程に貢献し、その後完成した作品を直接放送またはウェブ配信したり、ノンリニア編集システムと未完成の編集データを共有して仕上げを行うことが簡単になります。効率的なストーリー中心型およびニュース項目ベースのワークフローが、場所を問わずコンテンツ、項目表、およびビデオ・アセットへのアクセスとコントロールを提供するため、寄稿者が前例にないほど効率良くコラボレーションすることが可能になります。

インテグレートド・メディア・エンタープライズは、ローカル・ネットワークに接続されたクライアントを通すか、またはクラウドを介してサービスを提供することができます。制作および配信が、単一の物理的ロケーションからますます離れる中、コンテンツの製作者および消費者の両方は、社内、自宅、または別の大陸にいようと、どこからでも接続、従事することを望んでいます。これからの企業は、いつでも、どこからでも、誰でも参加できるよう、多くのサービスをクラウドを通して配信することになるでしょう。Avidは、Interplay Central導入の成功により、IMEおよびクラウド上のメディアの価値を証明し始めています。

インテグレートド・メディア・エンタープライズの主要な機能によってもたらされるメリットには、以下のものが含まれます。

- メディアの収録、およびポストプロダクションから、アーカイブおよび配信に至るまで、統合されたメディア運用を行うことで、拡張された企業全体でのコラボレーションが可能になり、運用上の効率性および透明性の向上を図ることができます
- 企業のメディア・アセットの完全な透明性、およびオープン・メディア・カタログを通して割り当てられたそのメディアの価値により、アセットの収益化が迅速かつ一貫性のあるものとなります
- モジュール式のオープン・アーキテクチャを使用することにより、高度なビジネスの俊敏性をもって新しい機会に迅速に対応することができます

異なる業界向けの多様なクラウド

最も基本的なレベルでのクラウド・コンピューティングとは、「サービスとしての」技術性能およびプロセスの配信、消費のことです。コンピューティング・インフラストラクチャーから完全なワークフローおよびビジネスの過程まで、クラウド・サービスは、必要ときに必要な場所での機能のオン/オフを可能にするウェブ・インターフェースを通して購入することができます。クラウドは、即座に利用可能で融通性に富むため、あらゆる状況でその場の必要に応じて伸縮し、ビジネスの俊敏性を高めます。その上、従来の調達周期を通すよりも、より速くかつ安価に性能を得ることができます。

「クラウド・コンピューティングのグローバル市場は、2010年の407億ドルに比べ、2020年には2410億ドルに達すると予想されている」

—フォレストラー・リサーチ

「フォーチュン1000企業の8割が、2年以内にクラウドを利用することになるだろう」

—ガートナー

クラウド・コンピューティングは金融や小売などの業界ですでに具体的な成果を上げ始めていますが、メディア企業独自のニーズや、メディアおよびエンターテインメント業界のより広範な要求の両方に見合うよう調整されたプラットフォームを採用することは、大きな可能性を秘めています。ほぼ無限の技術リソースが利用可能なため、ビジネスおよび視聴者のニーズの変化に柔軟に適應する新しいデジタル・バリュー・チェーンを創り出すことで、メディア業界が今直面している以下のような主要課題の多くに対応することが可能になります。

- HDTV運用への移行
- ファイルベース・ワークフローの採用
- IPネットワーキング
- マルチプラットフォームのコンテンツ配信

ほとんどの企業は、帯域幅をかなり低く抑えたファイルを生成するため、このタイプのデータの共有、保存、および管理は、かなり簡単に行うことができます。しかし、メディアは違います。制作過程は非常に共同的になる傾向があり、ファイル自体も大規模で複雑なものになります。メディア・ファイルには、誰もが見たり聞いたりできるようなビデオまたはオーディオ・コンテンツだけではなく、特定のニュース放送内の特定のシーンを指定するといった非常に限定的な情報など、かなり繊細なメタデータが含まれていることもあります。この「データの裏のデータ」であるメタデータが、制作される各アセットに大きな価値を見出すための要となります。クラウド内の他のすべてがそうであるように、メタデータは、より簡単に採掘、分析でき、新しい収益機会を生み出すために稼働させることができます。

パブリックとプライベート

クラウドベースソリューションは、パブリック・クラウド、プライベート・クラウド、または両方を組み合わせたハイブリッド・クラウドで実装することができます。公的に利用可能なクラウドソリューションと同様、プライベート・クラウドは、インターネットと高速広域接続のパワーを利用しています。プライベート・クラウドは、最大限のセキュリティを確保するために、企業のファイアウォールの内側に構築することができます。クラウドの多くのメリットを活用することを選ぶメディア企業は、多くの場合、このアプローチを選択します。リスクを軽減しながら利益を拡張するために、プライベート・クラウド環境で確立されたワークフローおよび最良の業務を、時間をかけて選択的にパブリック・クラウドに移行することもできます。

Avidのインテグレートド・メディア・エンタープライズ・フレームワークの柔軟性およびオープン性により、メディア企業は、持続的な成功を確実にするための慎重にアプローチし、プライベート、パブリック、およびハイブリッドのソリューションを採用することができます。グローバルな放送業界のリーダー達は、クラウドのような環境で展開されるAvidのInterplay技術をすでに採用し、著しいワークフローの改善およびビジネスの効率化を実現しています。これらのソリューションの多くは、プライベート・クラウド環境を備えています。たとえば:

- **WAN上での分散されたマルチサイト・ニュース収集および締め切り形式のコンテンツ制作**

大規模な米国の放送ネットワークは、全国各地およびロンドンのニュース支局の**8つ**で、AvidのInterplayアセット管理およびISIS®技術を実装しました。今や、支局内または遠隔地のすべての認可された記者が、**8つ**の支局全体から必要なアセットを同時に見つけて特定することができ、必要なメディアのみが**SD**または**HD**解像度で転送されます。その結果、そのネットワークは、配信までの時間の著しい短縮、(より選択的なバンド幅の使用に基づく)ネットワーク転送コストの削減、すべての支局からの最良の映像を組み入れたより良質の番組の制作が可能になったと報告しています。

- **複数の遠隔サイトから大規模な共有コンテンツのアーカイブへの分散されたアクセス**

主要なカナダの放送局は、Interplayの技術を使用したハブ・アンド・スポーク・モデルを採用し、遠隔サイトからの中枢プロダクション・アーカイブの検索だけでなく、コンテンツの寄稿を可能にしました。その結果、その企業は、メディア検索に関わる人件費を削減し、今では本社との間で選択的にメディアを伝送することが可能になりました。これらのアセットには、完全なメタデータおよび組成情報が付いているため、NewsCutter®またはMedia Composer®の編集アプリケーションを使ってメディアを「再リンク」することにより、番組の素材をアーカイブし、復元/再構築することができます。

- **マルチサイト企業のメディア・アセット管理およびワークフロー・オートメーション**

12の地域放送局に**400**以上の顧客を持つ北欧の放送局は、当社のInterplayソフトウェアを中心に構築されたハイレベルのバックボーンを使用してサイロを取り除き、ワークフローを改革しました。生まれ変わったこの会社は、企業全体にわたって新しい効率性を実現しています。その結果、

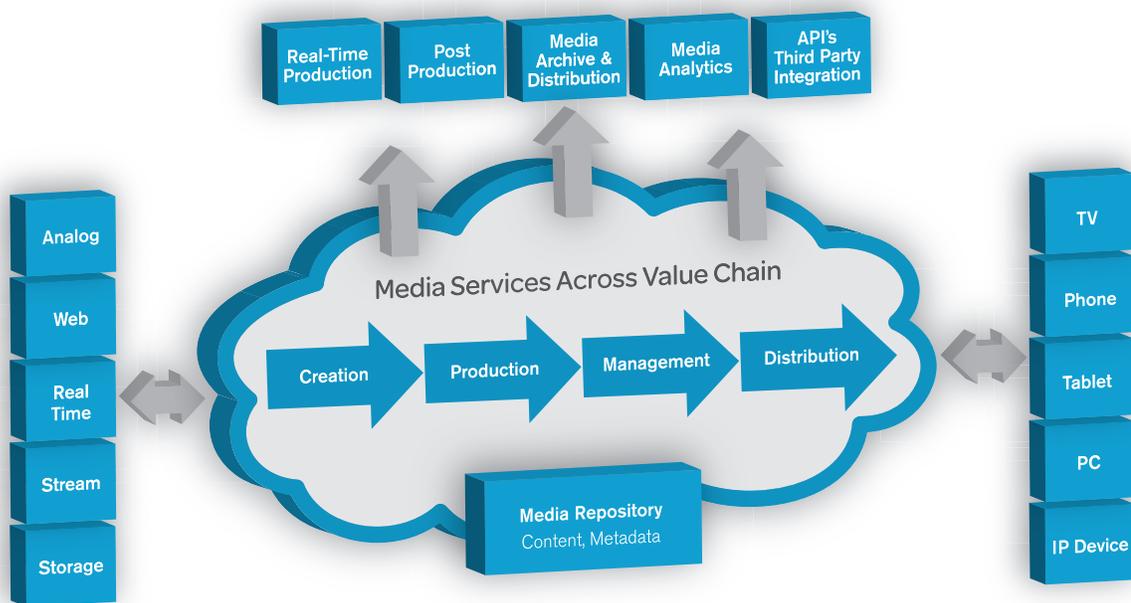
- a. さらなる加工のためのInterplayへのオーディオ・トラック直接アップロードと、システム上のすべてのメディア・アセットの即時ダビング
- b. ビデオおよびオーディオ・アセット両方の迅速なレビューおよび承認
- c. DVD配信および発送費用を節約できるジャーナリスト・レビュー・ポータル
- d. 幅広いサードパーティ・アプリケーションおよびストレージ・システムのインターフェース化および連携

これらの例は、IMEフレームワークとプライベート・クラウド技術の組み合わせが、分散的で柔軟性に富んだ未来を促進するために、どのようにローカル駆動の放送制作モデルにまつわる困難を乗り越えているかを示しています。

放送ワークフロー向けのクラウド・プラットフォーム

記事作りから配信まで、現代のプロダクション過程の全体はノンリニアになっています。それは、一連の特定の引継ぎから、無限のさまざまな継続的かつ共同的なワークフローへと進化を遂げてきました。流動的な環境での作業には数え切れないほどのメリットがありますが、マルチ・スクリーン配信のニーズに加え、HDや3Dなどの著しく大きいメディア・フォーマットを扱うことにより、メディア管理における一連の新しい課題が浮上しています。

図3:メディア業界向けのクラウド・ソリューション



IMEベースのクラウド・ソリューションは、今日のますます複雑化するプロダクション過程に固有の、制作、共同作業、保管、および管理における課題を満たすために必要な無限のスケラビリティおよび柔軟性を提供します。たとえば、ニュース制作向けに調整されたクラウド・コンピューティングを使うことにより、あらゆる接点で、価値を最大化するための新しい方法を見出すことができます。このアプローチによってもたらされる多くのメリットとして、以下のものがあります。

- 企業内のすべてのメディア・アセットへ、どこからでも安全にアクセスできるようにすることで、視聴者の信頼を築く良質の記事をより多く制作するために必要な映像、画像、動画およびオーディオ・ソースを、記者および制作者に提供します
- IP上のデジタル・メディア・ワークフローのさらなる普及を可能にし、オートメーションおよび効率の向上を図ることができます
- リアルタイムおよびオンデマンドのデジタル・メディアのエンコード、トランスコードおよびストリーミングを提供することにより、進化するNスクリーン配信モデルに対応した完璧なプラットフォームを構築することができます
- アセットおよび関連メタデータの中核化されたリポジトリを提供することにより、コンテンツをいつでもどこでも利用可能にし、関連性の高いカスタマイズ可能な視聴者体験を作り出すことができます
- 適切なメディアを対象にし、再パッケージ化して再活用するために、メディア、そのメタデータ、および分析を通じたメディア使用に関するより多くの知識を提供することで、新しい収入源を見出す機会を増やすことができます
- 知識の共有、コラボレーション、コミュニティ展開、および人材調達を可能にします

実務において、クラウドは、リアルタイム編集、コラボレーション、および記事の承認だけでなく、放送局が所持するメディアを真に最大限に活用するバージョン管理および配信性能の取りまとめを可能にすることをお約束します。

結論

視聴者の視聴動向の変化、コンテンツ制作の急速な拡大、および新しいプラットフォームの市場参入は、メディア情勢に大変動を引き起こしています。進歩的な企業は、既存のアセットを活用しながら、新しい市場機会を捉えるために迅速に動いています。メディア企業向けのクラウド・コンピューティングは、今後の課題に対処するだけでなく、それらをマスターするための多くの機会を提供しています。エンドツーエンド・ワークフロー、効率性および成長強化を目的としたAvidのインテグレートド・メディア・エンタープライズ・フレームワークや、場所を問わない気軽なアクセスを目的としたInterplay Centralといった革新は、他クラウドによるサービスとともに、メディア企業の成功を支援しています。メディア向けのクラウドと組み合わせることにより、以下のようなことが可能になります。

- 関連性の高いコンテンツの配信を通じた、視聴者維持のための新しい方法の開発
- コラボレーション過程の合理化による生産性の向上
- 既存アセットに価値を見出すことにより新しい収入源の確立

Avidのインテグレートド・メディア・エンタープライズ・フレームワークおよびInterplay Centralは、未来への架け橋となるだけでなく、すでに今日実証されているビジネス機会をも提示しています。—ビジネスのすべてを賭けることなく、戦略的にクラウドのメリットを審査するための方法としてお考えください。企業は今、メディア消費を高め、市場シェアを拡大し、他に差をつけることができる新しい性能を活用することができます。クラウドベース・ソリューションへのアクセスにより、いかなる必然的進歩や変化にも適応し、成功するために必要な敏捷性および柔軟性を活かすことができます。

参照

1. フォレストラーリサーチ
2. IDC ICT Outlook 2010
3. ABIリサーチ、モバイルビデオ・サービス